

データベースを活用して、必要な情報を取り出し、 自分なりに工夫してまとめることのできる子どもをめざして

－ 修学旅行を通して学ぶ阪神淡路大震災 －

長野県飯田市立三穂小学校 小林英美子 北沢 彰利

1. はじめに

本校では、5年生12名を中心として、総合的学習の調査学習でNIEの実践を行ってきた。本校は、神戸真陽地区への修学旅行をここ4年続けている。修学旅行を通して、阪神淡路大震災と復興に尽くした人々の努力を学ぶことがねらいである。

三穂地区と神戸真陽地区との交流は、平成7年1月17日未明に起きた阪神淡路大震災による被災地のひとつ神戸真陽地区へ、当時の市職員Oさんと三穂出身の市職員Kさんがボランティアとして参加したことから始まった。活動の中で真陽地区の「ふれまち協」のみなさんが、自分の家のことをかまわず地域復興のために一糸乱れず献身的な活動を展開していることに感動したお二人が、その後三穂公民館主事として着任したOさんを中心として、「ふれまち協」の委員長Sさんを「三穂の将来を考える市民セミナー」に招き、感動と交流の輪を広げていった。

やがて公民館を主体とした住民同士の交流が定着し、それが学校職員、そうして6年生の修学旅行にまで広がった。地域と連携した体験的修学旅行として、本校の特色のひとつとなっている。

5年生は、来年の修学旅行を前にして、「阪神淡路大震災って何なんだろう」「なぜ神戸の真陽地区の人たちと交流しているのだろう」と、学習をはじめることとなった。

この学習を新聞を使って学んでいこうとしたとき、どうしても今の新聞では題材が少ないので、過去のニュースに学ぶ必要が出てくる。そこで、本校ではNIEの事務局をお願いして、各新聞社のデータベース検索も利用できるようにしていただいた。

新聞のデータベース検索は、子どもにとっても教師にとっても初めての経験である。膨大な情報の海からどのように必要な情報を取り出し、どう自分なりのまとめとしていくのか、一からの研究ではあるが、現代に必要なやりがいのある研究であると考えて、上記のテーマを設定して、実践に取り組んできた。



2. 実践の概要

(1) 新聞を読める子どもを育てる

新聞を読むことには、多くの子どもたちが抵抗を持っている。

- 漢字が多く出てくる。
- 文章が長く硬い文章である。
- 専門用語が出てくる。

等が、その原因と考えられる。

そこで、次のような手立てを講じて、新聞を読める子どもたちを育てようと考えた。

【新聞を読む基礎作り】

- ① 漢字の多い新聞を読めるようにするために、漢字検定を中心とした漢字学習に取り組む。
- ② 長い文章を読み取るために、段落の概要をつかむ練習を行う。
- ③ 普段から粘り強く最後まで物事に取り組む態度を育てていく。

【新聞に親しむために】

- ① 新聞に親しみを持つために、手作り新聞に挑戦する。
- ② テーマを決めて、切り抜き新聞を作ってみる。

(2) データベースを活用できる子どもを育てる

データベースの活用には、インターネットを含めたパソコン操作とテーマに沿った情報の検索とまとめという二つの条件をクリアしなければならない。そこで、次のような実践を考えた。

- ① 子どもたちが興味を持っていて、修学旅行という目標も見えている、「阪神淡路大震災」について、自分のテーマに沿った情報検索という学習を設定する。
- ② データベースの検索も含めたパソコンの活用方法についても、同時に学習していく学習過程を組み、TTでの指導に当たる。

(3) 実践の歩み

月	学 習 の 内 容	時間
年 間	○ 漢字検定合格を目標として、漢字の学習に取り組む。 ○ 国語学習で、段落の概要をつかむ学習に取り組む。 ○ 粘り強く最後まで物事に取り組む態度を育てる。	随時
8 月	○ 地域に題材を求めた手作り新聞に挑戦して、県子ども新聞コンクールに応募する。	10
9 月	○ 朝のドリル学習の時間（10分）を使って、とにかく新聞を読む時間をつくる。（慣れる） ○ 自分の読んだ記事について、内容を簡単にまとめるカードを作っていく。紹介の時間もとる。（理解する）	4

10月	○ 自分が興味を持ったテーマで、切り抜き新聞をつくる。	3
11月	○ データベースを活用して、阪神淡路大震災についての、自分のテーマに沿った壁新聞づくりをする。 11月26日 NIE関係者への公開授業	6
12月 ～ 2月	○ 日々のニュースや学習の中で、興味を持った事柄について、新聞やデータベースで調べてみる。 ○ 学習のまとめをする。	随時

3. 実践の内容

(1) 新聞を読む基礎作り

- ① 漢字の多い新聞を読めるようにするために、漢字検定を中心とした漢字学習への取り組み。
 - 4年生のときから8級7級と挑戦してきて、5年生になった今年度は、6級（5年次学習漢字）と5級（6年次学習漢字）に全員が合格することができた。
 - 校内では、3年生以上が漢字検定に取り組み、漢字を読む力と書く力の充実を図っている。
 - 子どもたちを見たときに、この漢字力でもなんとか新聞記事を読むことができるのは、12人中8人程度である。

- ② 長い文章を読み取るために、段落の概要をつかむ練習を行う。

新聞の文章は、ひとつの段落が長い。ざっと読み通し、要点をつかむ練習をしないと、読むことに疲れてしまう。そこで、次のような練習を行った。

- 普段の国語の授業で、段落の要点を簡単な文章にする練習を意識的に行っていく。
- ひとつの新聞記事を選び、カードに要点を書き出す練習を重ねていく。

- ③ 普段から粘り強く最後

まで物事に取り組む態度を育てていく。

これは、言うまでもなく全教育活動に必要な力である。現代の教育が、「その子の興味・関心」や主体性を偏重するあまり、他者や自らによって強いることが少ない中で、貴重なことであると考えている。

読んだ感想	内容				感想
	内容	内容	内容	内容	
何秒かの間に大型のハリケーンがワシントンなどを直撃して、十数日までに十数人の死者が出た。数秒の間に起きただけで、死者やけががとてつもなく多かった。	大型ハリケーンが直撃した	大型ハリケーン	ワシントン米東部地域	九月十八日	大形ハリケーン米直撃

(9月24日(金)濃毎日)新聞

新聞記事と読む

(2) 新聞に親しむための活動

① 手作り新聞への挑戦

4年生のときから地域に題材を求めて「県こども新聞コンクール」に応募してきたが、今年は信濃毎日新聞飯田支社長さんを講師にお願いして、力を入れて取り組んだ。

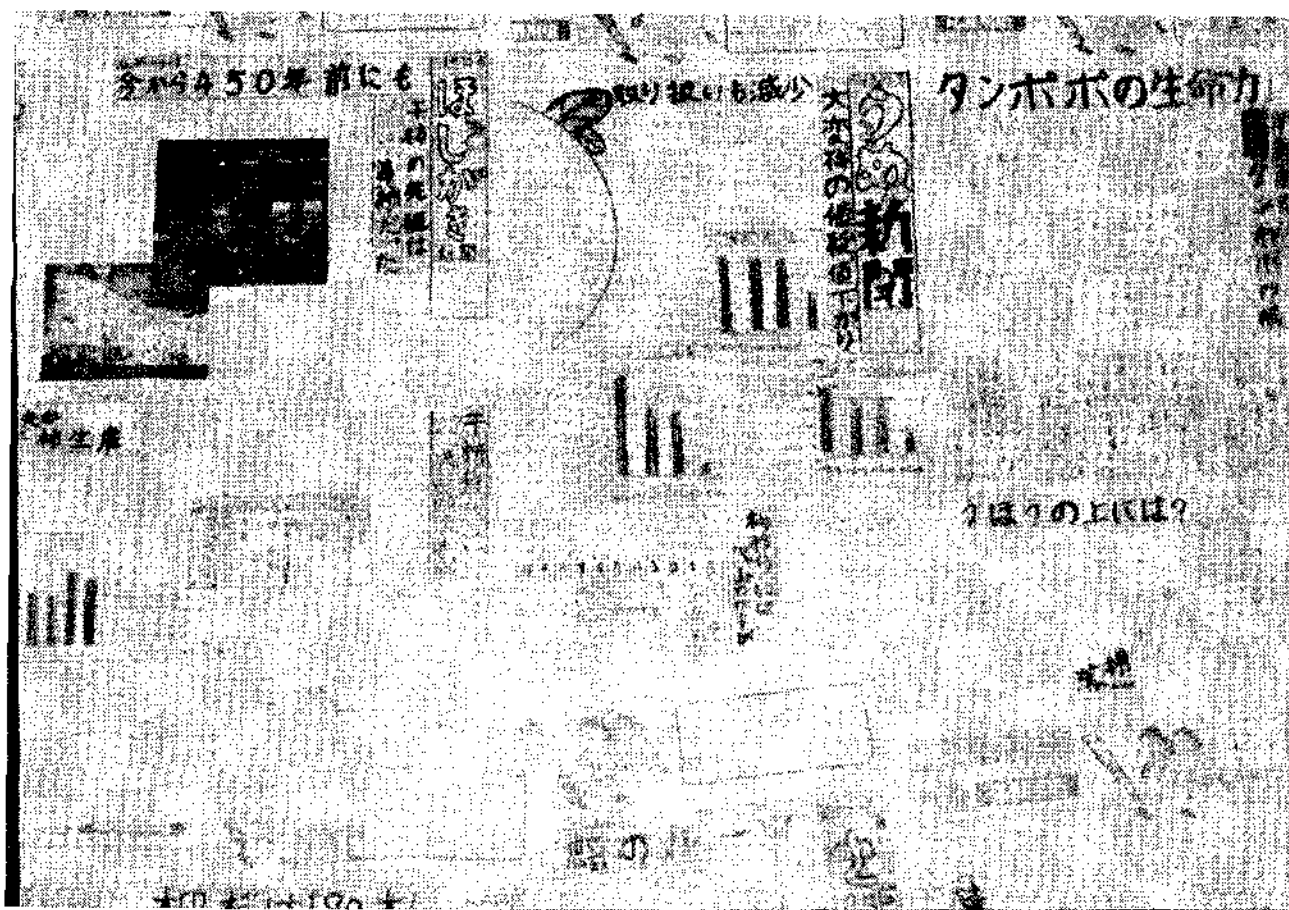
○ 新聞作りを通して、新聞に親しみを持つきっかけとする。

○ 新聞の紙面の工夫について、考える機会とする。

ことがねらいであった。

結果としては、10人中5人の子どもたちが地方入選を果たし、その内の3人が県の審査でも入選することができた。

この活動を通して、子どもたちの新聞への関心が高まった。



② テーマを決めて、切り抜き新聞を作る

新聞の記事を読むことに慣れてきたところで、自分のテーマを決めて5社の新聞からの切り抜き新聞を作ることに挑戦した。それぞれの興味とセンスが生かされた切り抜き新聞ができあがった。

子どもたちが取り上げたテーマは、次のようなものである。

- | | | |
|-----------------|--------|--------------|
| ○ アメリカで大活躍の野球選手 | ○ 動物 | ○ 長野県の祭り |
| ○ 海を渡ったサッカー選手 | ○ 拉致問題 | ○ 陸上自衛隊イラク派遣 |

- 地震 ○ おそろしい火災 ○ アメリカイラク戦争
○ 日本の病気 ○ 今年の農業問題 ○ 危ない環境



◇ 1時間目に切り抜き新聞を作りました。まずテーマを決めてから、その記事を切り取っていきました。私は、拉致問題についてやりました。これは、トップ記事がとて多かったです。明日はいよいよまとめていくので、見やすいように工夫しながらまとめていきたいです。(M)

(3) データベースを活用できる子どもを育てる

① 学習の展開 [概要]

	学 習 内 容	I T の学習内容	時間
I	阪神淡路大震災について、自分で調べたいテーマと項目を決める。		1
II	テーマ別にグループ分けをして、データベースでの検索を試してみる。	○ データベースの基礎知識 ○ キーワードによる検索法	1
III	必要な記事をデータベースから検索してプリントアウトする。	○ プリントアウトの方法 ○ 絞り込みのテクニック	2

② Ⅲの第2時の学習の様子から

■ 学習のねらい

自分たちのテーマと照らし合わせて、キーワードを設定したり絞り込んだりして工夫しながらよりよい記事を検索し、交流のきっかけとなった阪神淡路大震災について理解を深める。また、記事にふれることを通して、悲しみに負けないで立ち上がろうとする人々の力や工夫、思いやる温かさを感じ取っていく。

■ 学習の流れ

1. 今までに分かったこと、心に残っている記事について発表した。また、これまでの学習で困っていることを出し合い、解決へ向けての情報交換をした。
2. 今日調べようとしていることを、内容やキーワードで確認した。
3. ニュース記事の検索を行った。
4. 今日分かったことや、取り出した記事についての感想を発表しあった。これからの学習の課題についても出し合った。

■ 各グループの学習から キーワードと分かったこと

交通機関の問題と工夫 D Y

キーワード：阪神大震災 耐震設計 線路 電車 道路 神戸大橋

- 救援道路をすぐに造って救援物資を送った。
- 被災地では、車より小回りのきくバイクや自転車の方が役に立った。
- 阪神大震災は、衝撃が大きかったらしく、大丈夫と言われた建造物が倒壊、その後土木基準法を大幅に改正した。
- 交通機関だけでなく通信網も寸断、救助が大幅に遅れた。
- 10兆円以上の被害になったのは、高速道路などの倒壊だと思う。
- T字型の高速道路は倒壊が大きかった。
- 地下鉄の天井落下は、その後の耐震設計に大きく影響した。

避難所の姿 M M

キーワード：阪神大震災 避難所 人々 生活 苦労

- 避難所の苦労は、やっぱり水、トイレの問題だった。
- 1年経っても、たくさんの方が家を無くし避難所で暮らしていた。
- 公民館や学校が避難所になった。仮設住宅も建てた。
- ☆ 避難所の苦労などは分かったが、人々は避難所でどんな一日の生活をしてたか知りたい。
- ☆ 冬だったからどんな苦労があったのかも知りたい。

【他のテーマを調べた子どもたちの様子から】

- 震災による死者の数が、日が経つにしたがって、どんどん増えていく。最初は何

人の人が被害に遭ったのか、正確には分からないほどの大地震だったのだ。

- 外国から救援活動に来てくれた人たちがいる。スイスからも来てくれていて、搜索犬も12頭来てくれている。シェパードやラブラドルレトリバーが搜索犬にはいいそうだ。
- 地元の新聞には、自分たちの住んでいる地域と関係した大震災の様子が多く出てくる。

③ データベース検索をする子どもたちの様子から

- 検索の方法は、それぞれの新聞社によって多少違うが、キーワードや日付で検索していく基本的方法は同じである。子どもたちが、その方法を理解して検索することに問題はない。
- 他のコンピュータ操作もそうであるように、データベースの検索においても、トラブルはつきものである。各新聞社によっても、そのトラブルの現れ方は違う。たいがい、ログインを再度し直すことで解決するが、子どもたちに対処方法を伝え広めていくことが有効であった。
- 検索の結果、大量に記事に当たるときと、0になるときがよくある。大量に記事に当たったときには、次の絞り込みをなんというキーワードで行うか、あるいはざっと見た中からどの記事に見当をつけて開くかがその子のセンスとなる。0となったときには、反対にキーワードをどう広げていくかが、ポイントとなる。
- データベース記事は、写真や見出しが無いので、やはり「文章を読み取る力」が重要となってくる。基本はこの力である。

4. 実践の成果と課題

- (1) 新聞を読む力を高め、身近に置き、親しませることで、新聞を読み活用する子どもたちを育てることができる。
- (2) 同時に、漢字力や段落の概要をつかむ力を意識的に育てていくことが、新聞を読める子どもを育てることにつながる。
- (3) 小学生でも、新聞のデータベースを活用して学習していくことができる。
 - パソコンの操作自体には、子ども達の抵抗はない。
 - データベースの記事を読みこなすことが、子ども達にとって一番の困難点である。
- (4) データベースの活用には、どのような可能性があるかは、まだまだこれからの課題である。
 - 今回のように、昔の出来事を調べていく時や、ニュースが時間軸とともにどう変わっていくかといったことを調べていくときに、有効であると思われる。

